熊本学園大学　2019/09/26
水俣学講義　1回目

水俣学への招待：水俣病事件の歴史と現在

熊本学園大学社会福祉学部
水俣学研究センター
花田昌宣

授業を始める前に：この授業の特徴

（1）大学の教員とゲストの講義の組み合わせ
　　ゲストは、必ずしも学者研究者ではなく、
　　水俣病に直接関わった現場の人たちを中心に
（2）講義の記録は本になります。『水俣学講義』はすでに5冊出ています。
（3）ネットを活用してライブ中継をしています。
　　全国、全世界の人たちが見ることができます。
（4）出席はカードで。成績については口述

大学での学びと本日の話

（1）社会性、創造性、人間的知性に富む人間になるために
　歴史の経験から学ぶ
　目の前の出来事(問題と課題解決）から学ぶ
　未来を創造するために経験を生かす。

→　抽象的な理念も、具体的な事象から生まれる

（2）人類の負の遺産としての公害、水俣病の経験を将来に生かす
　新たな学としての水俣学の創造

（3）水俣学で学ぶこととその応用：水俣病の経験の活かし方

熊本学園大学
KUMAMOTO GAKUEN UNIVERSITY

本日お伝えしたいこと

人類の経験した公害，水俣病の負の遺産（失敗の経験）に学び，将来に活かす

▶　水俣病の60年の歴史を学び，今なお残されている課題を理解すること
▶　水俣病という公害が，学校の中で習った過去の問題ではなく，いまなお終わっていないこと
▶　ひとりひとりの暮らしのあり方を考え直すきっかけを得ること

水俣病60年の意味：水俣病60年　歴史の重みと今日の課題

水俣学の構築と私達の取り組み
現場に学ぶ
専門家主義を排し、市民・研究者の協働
学問の「中立性」と被害民を真ん中に

人権教育の現場では皆さんがこれまで聞いてきた話

- ［暗い・辛い話ばかりではなく明るい将来の話が欲しい］
- 水俣病授業のパターン
- 1. 水俣病はなぜ起きたか
  - チッソの行ったこと
  - 漁業と水俣病や漁民の暮らし
- 2.被害者の苦労に耳を傾けよう
  - 患者の声を聞く、患者の文章を読む
- 3.水俣病の経験を生かそう
  - 環境を大切に、環境モデル都市、もやい直し…

学校で習ってきたこと

1　水俣病とはなにか　　学校で習ったこと
　中学社会:地理　公民、高校　現代社会
　4大公害事件　原因物質の一覧表
　高校教科書で
　　現代文　石牟礼道子「後生の桜」（湯堂漁村の患者さんの語り）

　小学校5年　社会で習います　例　光村図書　10ページ

わたしは、漁師の家に生まれました。元気なころは、仲間といっしょに漁に出ていましたが、水俣病にかかってからは漁もできなくなり、ねたきりの日々が続きました。水俣病は、人にうつらない病気ですが、原因が分からない間はうつる病気だと誤解され、「うつるから村の中を歩くな。」と言われたり、食べ物を売ってもらえなかったり、数え切れないほどのいじめやいやがらせを受けました。このように、水俣病は人の健康や生命をうばっただけではなく、人と人とのつながりをもこわしてしまったのです。（茂道漁村の患者さんの語り『光村』194頁）

熊本学園大学
KUMAMOTO GAKUEN UNIVERSITY

なぜ、今、MINAMATA

正式発見から63年を経過している.
2004年最高裁判決によって行政責任が認められ、
2013年国の認定基準の過ちも認められ、
行政の水俣病病像、認定制度や救済策が破綻した.
しかし　水俣病患者の苦悩と苦闘は続いている

風化させないために、
今、検証して未来へつなぎたい.

熊本学園大学
KUMAMOTO GAKUEN UNIVERSITY

【水俣病とは　1】
それまで人類が経験したことのない公害事件

［環境汚染による公害病］　一企業(チッソ)が、産業活動によって生み出された有機水銀を含む有害物質を、不知火海に未処理のまま大量に排出し、環境を汚染し、食物連鎖を経て、人体に取り込まれて起きた公害病

[身体的被害]　環境汚染が、重篤で大規模な人体被害をもたらしたもの。中枢性の神経疾患が主要症状である。

熊本学園大学
KUMAMOTO GAKUEN UNIVERSITY

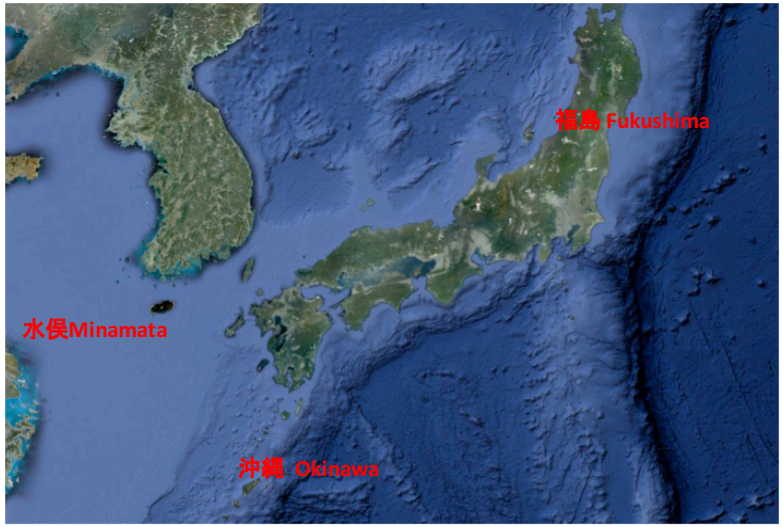
【水俣病とは　2】

[胎児性水俣病]　胎盤を通して汚染、水俣病という障害を持って生まれてくると言う被害がもたらされるという未曾有の経験もしました。

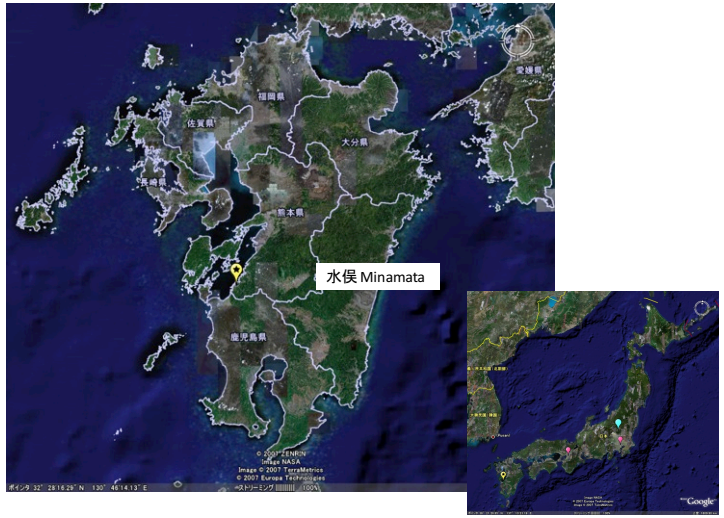
[汚染の広がり]　汚染そして被害は、水俣湾から対岸の島々まで不知火海全体に広がっている。

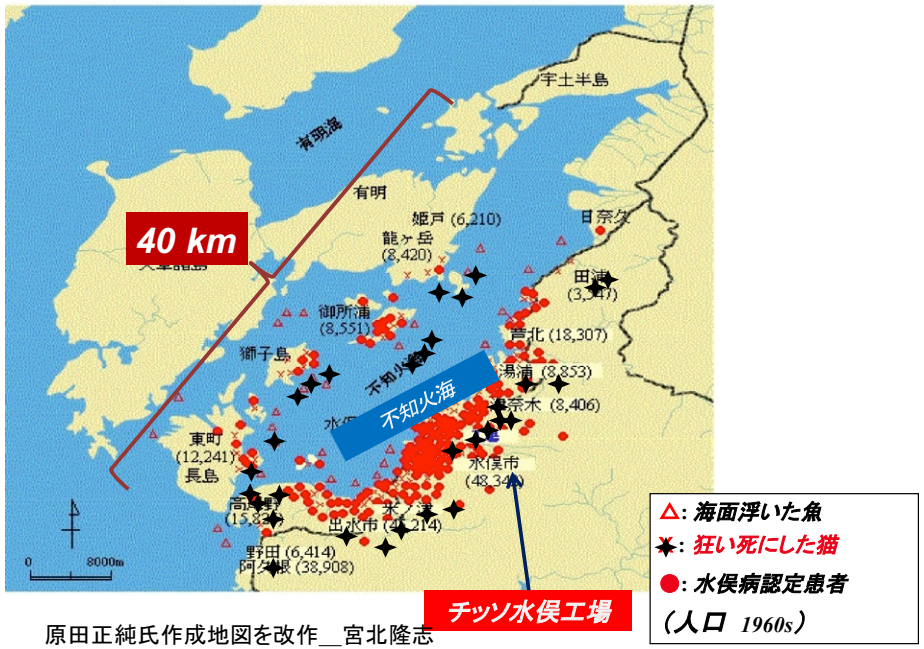
［被害者数は？］　国の基準で認定された人、国の基準を満たさないが健康被害を受け、医療給付を受けている人、認められないまま亡くなった人、まだ隠れている人……　全体像は不明!!!

水俣とはどこにあるか：
東京（中央）と水俣（地方）国家による差別



水俣とはどこにあるか:県庁からも遠い





原田正純氏作成地図を改作＿宮北隆志

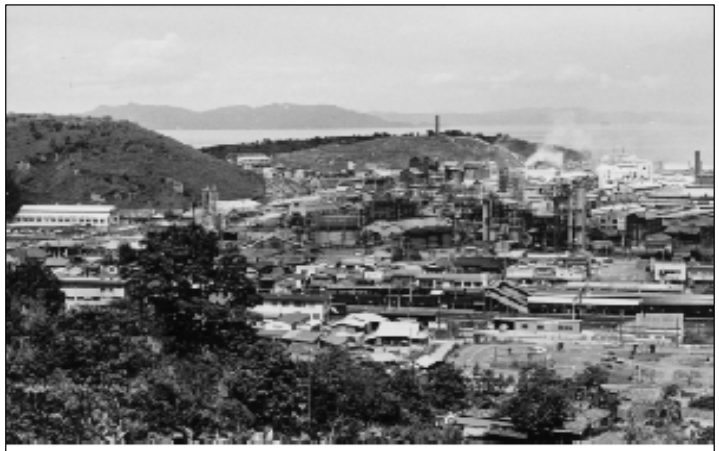
繁栄する水俣市

昭和35年 水俣チッソ工場　写真提供:小形(元ﾁｯｿ労働者)

水俣病発生の公式確認

1956年5月1日　新日窒付属病院細川一院長が、原因不明の疾患発生と水俣保健所に届け出　田中静子・実子姉妹の発症

チッソ水俣工場　1960年



チッソ水俣工場　　昭和35年撮影、水俣市立水俣病資料館提供

不知火海

1956年5月1日に報告された患者自宅

チッソの百間排水口の水銀ヘドロ（1970年代）

ここから工場の廃水が無処理で排出され汚染が拡大した

胎児性水俣病患者
（1962年撮影）

原田正純によると胎児性水俣病患者　68人
（2012年現在）

- 子どもの頃の坂本しのぶさん（現在**63**歳＿胎児性水俣病を生きてきた方）

胎児性水俣病患者が多発した漁村地域　湯堂
Yudo, The village where many Congenital Minamata disease cases Occurred

Ｕ地区の胎児性・小児水俣病の発生状況

胎児性水俣病とは

- 胎盤を通して、有機水銀が胎児に蓄積し、水俣病にかかったもの。
- 子宮は、プラセンタバリア（Placental barrier、胎盤関門）によって毒物を取り込まないため、水銀が体内に入ることはないと思われていた。
- 出生時は、脳性まひ様の症状で、水俣病とは分からなかった。同様の子どもたちが同一の水俣病多発地域に多数発生。
- 1962年、子どもの患者がたちが死亡し、解剖した結果、水俣病であることが判明した。16名の子どもたちが胎児性水俣病と認定。
- 原田正純医師（元本学教授）が科学的に解明した。

胎児性水俣病患者　しのぶさんは

1956年生まれ

小学校に入学するために水俣市立病院に入院した。水俣には特殊学級が水俣市中心の水俣市立第一小学校にしかなかったため、自宅からバスで通学することができないためであった。彼女は、当時のことを

「楽しかった。先生たちと遊んで楽しかった。夜は泣きよったって、寂しかったの。」

毎週土曜には自宅に帰り、月曜の朝、病院に戻る

「月曜の朝が一番嫌だった。家におりたかった。」

この子は宝子です

上村智子さん
1977年12月5日、21才で他界

水俣病の経験から学ぶこと

- 患者発生が確認された時、対策は取られたか
- 会社（チッソ）や国、熊本県はどうしていたか
  原因究明できないと対策ができない（？）
- 「いのち」を大切にする視点の欠如と病者に対する差別

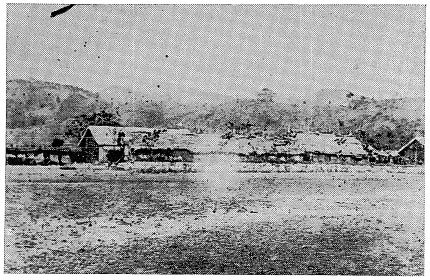
熊本学園大学
KUMAMOTO GAKUEN UNIVERSITY

水俣病の発生と被害の拡大

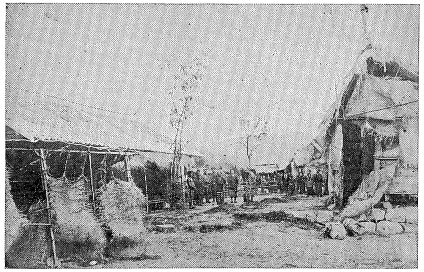
▶　チッソ（株）による有機水銀を含み有毒廃水の無処理放出
▶　それによる海の汚染、
▶　魚貝類の汚染と流通、摂食
▶　行政の放置：規制しなかった
▶　戦前から何度も漁業補償を行っていたが、なぜ、規制がされなかったのか
　漁民、漁村への差別の目、地方への差別の目
▶　健康被害と差別の目

水俣避病院（伝染病院）開設とコレラ

明治10年10月、水俣地方においてコレラ大流行。日本赤十字社の前身博愛社は冨岡敬明熊本県権令の要請に応じ、軍医部長の許可を得て、医員助竹崎季薫を「水俣伝染仮病院」に派遣し、コレラに苦しむ多くの患者の救護にあたらせた。この時、創設者佐野常民は冨岡から感謝状を与えられている。
明治33年伝染病予防法に基づく伝染病院となる。



白浜の避病院全景（赤星衛吾氏撮影）（明治26年ごろ）



白浜の避病院（赤星衛吾氏撮影）（明治26年ごろ）

水俣病発生当時の避病院（伝染病院）
昭和31年7月、水俣病患者収容

当時の避病院イメージ図（絵・小島憲二郎）

板の上に筵を敷いた異臭のする部屋に患者は寝かされていた。（徳臣医師）訪問すると消毒の臭いが取れなかった（家族の証言）

水俣学とは
学園大学の水俣学研究センター

- 現場に学び、現地に返す　事実に根ざすこと、事実に寄り添うこと　→現場はコンフリクトの渦
- 多様な学問の協同：学問の壁を超える
- 専門家と素人のオープンな協働　専門家とは何か
- 歴史に学び、将来に活かす
- 国境を越える世界に発信し、国際的協働

水俣学は新しい学問のモデル

～～～既存の装置（枠組み）を超える
開かれた学問～～～
権威主義、官僚主義、保守主義、不正義と
対決する革新的・変革の学問を目指す.
地域で、地域を学習して地域に返す.

（原田正純：水俣学講義）

過去の失敗を将来に活かすために：いのちの尊厳

▶　いのちを大事にすること。いのちとは人の人生そのもののこと。ともに分かち合ういのち、ともに生きるいのち。いのちの尊厳には上下はない。

▶　しかし時代の波に巻き込まれて、いのちの価値を見失うときに、公害は起きるのだろう。

おわりに

- 大学で学ぶことと未来の創造への参画